

【医学部 医科栄養学科】

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。  
 ・ディプロマ・ポリシーをさらに細分化している場合には、それを項目として用いることができる。

ディプロマ・ポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的意力】	教育目標
科目名		医療現場や地域社会において、医学を基礎として疫学に基づき適切な予防及び健康増進に必要な基礎・専門分野の知識を修得している。	(1)病態の分子基礎を理解し、科学的根拠に基づき適切な高度な栄養管理・栄養療法を行うことができる。 (2)他の職種の人々と円滑な連携と取組むことができる。特に、責任を持って地域医療に携わることができる。	(1)患者及び地域住民の栄養管理・栄養改善に寄与するために、責任を持って行動をとることができる。 (2)進歩する臨床医学に対応できる臨床栄養学の専門職人として、生涯学び続ける意志を持つことができる。	修得した基礎から臨床分野までの専門知識を基盤とし、医療や社会のニーズに対応した最新の栄養管理及び栄養改善を行う能力を有する。	人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方」を学び、様々な知見を自らの分野に採録し、応用できる感性・知性の修得を目指す。  ・人間の営みが創造してきた文化や社会事象とその過程・現れ方などを学び、現代社会におけるそれらの意義を考える。 ・歴史を学び、これまでに形成されてきた文化や人間の有り様の表現、その広がりや学び、その意味について考え、探求する。 ・人文科学分野(歴史学、文学、言語学、考古学、地理学、文化人類学、芸術など)を中心に社会科学分野(経済学、社会学など)への視野を広げる。  ・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関する問題への適切な判断や生命倫理・倫理的であることの意味などの根拠的な問を思案することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。  ・生命の仕組みを理解し、現代社会を取り巻くさまざまな諸課題について考える。 ・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法社会学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ視野を広げる。  ・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術(社会)がもたらす利点とデメリット、技術の基礎、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につけることを目標とする。 ・これまでの自然科学のみならず工学、医学、法学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
一般教養科目群						
	歴史と文化			○		
	人間と生命	◎	○	○	○	
	生活と社会	○			○	
	自然と技術	○	○	○	○	
グローバル化教育科目群	グローバル化教育科目				○	国際文化やグローバルスタンダードの理解を通して、実社会におけるグローバル化社会に対応した研究・開発・業務などの展開力やさまざまな領域における創造的思考とそれを実現するためのものづくり・スキル(IT・英語・プレゼンテーション)のための法政大学での専門分野を学ぶ前提となる数学・理科などの基礎学力を得ること。さらには自立的学習能力や自己健康の自己管理能力など、大学生としての基礎となる能力を修得する。
イノベーション教育科目群	イノベーション教育科目				○	
基礎基礎教育科目群						
	基礎数学	○				
	基礎化学	○	○			
	基礎化学実験	○	○			
	基礎生物学	○	○			
	基礎生物学実験	○	○			
	ウェルネス総合演習			○		健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにした演習、実習により総合的に学び、考える。
汎用的技能教育科目群						
	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～			○	○	専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習態度を身につけることなどを学ぶ。 情報の取り扱いはその倫理などの基本を学ぶ。PC、計算ソフトの使い方を把握して、レポート作成法、PCを用いたプレゼンテーションへの対応やインターネットの利用、そのモラルを学ぶ。
	情報科学	○			○	
	スタディスキル			○		学生生活に役立つ、効果的な学習スキルを身につける。
	コミュニケーション		◎	○	○	自らのコミュニケーション能力を向上させ、他者と協力できる力を培う。
地域科学教育科目群	地域科学教育科目	○	◎	○	○	地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指して、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。
外国語教育科目群						
	英語				○	英語をほはじめとするドイツ語、フランス語、中国語の学修を通じ、語学や外国語を通して文化理解力の獲得を目指す。 英語(英語が、大学で学修する上で高度な知識や能力の習得に必要)を目指す。主題別英語は主題に応じた内容の英語に関して、自発的・主体的に学習することを目指す。英会話英語は、授業に積極的に参加し、英語の運用能力を高め英語による発信力を身につけることを目指す。
	英語以外の外国語科目				○	初級の外国語(「入門」と「初級」)について、基礎力と自ら学んでゆく発信力を学ぶ。
社会・環境と健康						
	公衆衛生学	○		○	○	衛生学や公衆衛生学とはどのような学問なのか説明できる。 生活の中で健康をどのように考えるか説明できる。 人口をきめる出生率や死亡率をどのように計算・利用して得る日本社会へ応用すべきか説明できる。 生物学的、物理化学的疫学などについて説明できる。 保健医療福祉に関する現状などのあゆみについて説明できる。 保健医療福祉の現状が説明できる。 保健医療福祉に関する課題が説明できる。
	保健医療福祉学	◎				
	栄養情報処理学実習	○	○		○	正しいデータ解析力を身につける。
	公衆衛生学実習	○		○	○	ひとの健康を保持増進するためには社会や環境はどうかあるべきかを体験・理解する。
	栄養公衆衛生学演習	○	◎		○	健康の維持・増進に関する栄養学研究的知見と研究手法を健康と人体の構造がいかに機能と結びついているか、に重点を置いて、生命の仕組みについて総合的に理解する。 身体を構成する基本的な物質の性質を知り、それら物質の体内での役割を理解する。
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち						
	人体構造機能学	○	◎			
	生化学・分子生物学	○			○	
	臨床医学入門	◎				
	微生物学	○	○			栄養管理に必要な臨床疾患の病態や治療を習得する。 生活の中での「微生物」の働きを理解し説明できる。 微生物が引き起こす疾病の概略について理解し説明できる。 人体が引き起こす免疫応答の基本的現象を理解し説明できる。 栄養学を分子レベルで理解するため、化学反応のメカニズムに関する基礎的な知識を習得、理解する。 実験動物の取り扱いと研究の基礎的手法を修得する。
	生物有機化学	○	○		◎	
	人体構造機能学実習	○	○		○	
	生化学実験	○	○		○	
	微生物学実習	○	○		○	
	栄養生物学	○	◎			
食べ物と健康						
	食品学基礎	○	○	○	○	食品の化学と物理に関する基本原則を理解する。
	食品プロセス学	○	○	○	○	調理・食品加工に関して、管理栄養士として必要とされる事項を中心に理解する。
	食品衛生学	○	○	○	○	食品衛生に関連する基本的事項を理解し、箇々の授業内容の中で重要な点を十分に理解し、実習で活用できるような知識を身につける。
	食品素材学	○	○	○	○	食品の化学と物理に関する基本原則を理解する。
	食品学実験	◎	◎	○	○	調理・食品加工に関して、管理栄養士として必要とされる事項を中心に理解する。
	食品プロセス学実習	○	○	○	○	食品衛生に関連する基本的事項を理解し、箇々の授業内容の中で重要な点を十分に理解し、実習で活用できるような知識を身につける。
	食品衛生学実習	○	○	○	○	食品の化学と物理に関する基本原則を理解する。
	食品健康学演習	◎		○	◎	食品と健康との関係の最新情報を理解する。
基礎栄養学						
	基礎栄養学	○	◎		○	各栄養素の種類と体内での役割、代謝について理解し、その概要が説明できるようにする。
	基礎栄養学実習	○	◎		○	基礎栄養学により学習した理論を基にして、基礎から応用まで広く活用できる能力を身につける。

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 知識・理解】				【2. 汎用的技能】				【3. 態度・志向性】				【4. 統合的な学習態度と創造的風采力】				教育目標					
		医療現場や地域社会において、医学を基盤として食を通じた疾患予防及び健康増進に必要な基礎・専門分野の知識を修得している。				(1)病態の分子基盤を理解し、科学的根拠に基づく適切な栄養管理・栄養療法を行うことができる。				(2)食の専門家として、他の職種の人々と円滑な連携を取ることができ、μ医療及び地域医療に携わることができる。				(1)患者及び地域住民の栄養管理・栄養改善に寄与するために、責任を持った行動をとることができる。					(2)進歩する臨床医学に対応できる医科栄養学の専門職人として、生涯学習を続けることができる。				修得した基礎から臨床分野までの専門的知識を基盤とし、医療や社会のニーズに対応した最新の栄養管理及び栄養改善を行う能力を有する。
応用栄養学	栄養生理機能学	○	◎															栄養素別の消化と吸収機構、生理機能、必要量、欠乏症を習得					
	ライフステージ栄養学	○	◎															各ステージにおける栄養学的な問題点の理解と管理を理解する。					
	応用栄養学	◎																エネルギー代謝の測定法、評価法を理解する。各種特殊環境下でのエネルギー代謝を理解する。					
	栄養生理機能学実習		◎															消化器系の構造と機能(動物)、感覚器(各自)の生理的特徴を修得する。					
	応用栄養学実習	◎																エネルギー代謝の測定法、評価法を理解する。各種特殊環境下でのエネルギー代謝を理解する。					
栄養教育論	栄養カウンセリング論	◎																英語の論文を読みこなす能力をつける。					
	栄養教育論1	◎																研究の分野の病態などを理解し、研究の意義を理解し、研究の計画を立てる。					
	栄養教育論2	◎																実験などの技術を習得し、研究を遂行する。結果を考察し、研究を見直す。					
臨床栄養学	臨床栄養学	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	論文を作成する。					
	臨床栄養アセスメント	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	臨床の栄養指導において必要とされるカウンセリング論およびカウンセリング手法について理解する。					
	臨床栄養管理論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	栄養教育の対象者への栄養教育法の運用について理解することを目指し、実践する。					
	栄養と薬	○	◎															症例に基づき臨床栄養管理法を学ぶ。					
	臨床栄養学実習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	臨床の栄養指導において必要とされるカウンセリング論およびカウンセリング手法について理解する。					
	病態栄養学実習	○	◎															栄養教育の対象者への栄養教育法の運用について理解することを目指し、実践する。					
	データ解析学	○	◎															症例に基づき臨床栄養管理法を学ぶ。					
	食事管理学	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	臨床の栄養指導において必要とされるカウンセリング論およびカウンセリング手法について理解する。					
	経腸栄養管理学	◎	◎															症例に基づき臨床栄養管理法を学ぶ。					
	疾患栄養管理学 I	○	◎															臨床の栄養指導において必要とされるカウンセリング論およびカウンセリング手法について理解する。					
公衆栄養学	公衆栄養学	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	患者の病態を把握し、栄養管理法を提示する。					
	地域公衆栄養学	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	患者の病態および栄養状態を評価できること。					
	公衆栄養学実習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	臨床病態の栄養管理が行えるようになる。					
	実践栄養学実習	○	◎															臨床病態の基本的知識や栄養管理に必要な薬の薬理作用を習得する。					
給食経営管理論	給食栄養管理論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	患者の病態を理解し、適切な栄養管理を行うために必要な知識・技能を習得する。					
	給食運営管理論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	1. 適切な栄養アセスメントが実施できる。					
	給食栄養管理論実習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2. 患者の病態を説明できる。					
	給食運営管理論実習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3. 問題点を把握し、栄養管理計画(栄養補給法、献立、栄養教育など)を立案できる。					
総合演習	臨床栄養学総合演習	○	◎															病態に対応した栄養管理の理論を理解し、献立をたてて食事を提供できる。					
	ライフステージ栄養学総合演習	◎	◎															1. コンピュータの基本知識を習得する。					
臨床実習	臨床栄養管理学実習(病院)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2. 医療におけるコンピュータの利用方法を理解する。					
	公衆栄養学実習(保健所等)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3. 医学統計学の基本知識を習得する。					
	給食経営管理論実習(学校)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	4. 医療データの統計解析方法を習得する。					
その他	卒業研究(実験)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	各病態の食事の実験を理解する。					
	外書講読	○	◎															栄養指導の進め方を理解する。					
	栄養英語	○	◎															提示した症例の栄養指導プランを作成する。					